

賣卜先生糠俵後篇

堀
坤

9
3883
3止



賣上先生糠俵後篇下

翁童子と呼ぶ者次ハ謹そ

我々年よりて堪忍情なく。口徒の者といふを
可く。隣れ人のいふく。其元の堪忍情なく
家内むつまじく。年よりて堪忍情なく。口徒の者といふを
学問の教へや。学問せり。あるは。其元の堪忍情なく
よく。堪忍情なく。我々や。あるは。其元の堪忍情なく
同の出来。あるは。其元の堪忍情なく。口徒の者といふを
せり。あるは。其元の堪忍情なく。口徒の者といふを
ない。あるは。其元の堪忍情なく。口徒の者といふを

萬ふなり。まゝおや食おあす。で。き。と。い。ひ。後。大。
 り。て。あ。す。す。と。れ。ど。や。な。な。知。角。石。性。ハ。石。性。子。繁。
 ハ。舟。の。う。ま。田。舎。よ。任。者。ハ。や。い。う。り。田。舎。は。ま。う。な。か。り。
 親。父。の。日。私。共。ハ。徳。田。畑。十。反。足。す。れ。石。性。ま。へ。人。
 の。將。と。持。是。と。い。う。ふ。う。う。議。事。ハ。人。な。が。う。一。生。男。
 と。持。よ。は。こ。う。ざ。れ。い。ふ。も。言。ま。ぬ。身。分。又。と。不。收。
 一。年。う。ま。め。く。ま。へ。ハ。な。ま。云。然。う。せ。来。れ。出。世。を。祈。ふ。
 う。う。り。中。く。榮。耀。で。い。こ。う。ま。す。や。ぬ。氣。の。日。燒。野。の。
 雄。子。夜。の。露。子。と。思。へ。さ。う。と。れ。ハ。なり。云。然。う。可。
 ち。う。も。盡。上。ま。り。姑。息。と。い。ふ。夢。う。ぬ。か。う。う。ん。

其^{あま}ひ毒^{どく}と喰^くせまいぞとらかな云々子^こハ親^{おや}の其^{あま}
 ぐさうひ毒^{どく}じや。昔^{むかし}業^{わざ}と申^{まを}ねが^が能^よ。昔^{むかし}一^{ひと}妙^{めう}あ上^{じやう}
 人^{ひと}の趣^{おもひ}のまよと。麻^{あし}のまよと。喰^くひしと。上人^{じやうじん}えなまひ
 了^し打^{うち}よ押^{おし}よくお^おつく下^げ知^ちとあし。自^ごらまも
 杖^{つゑ}振^ふわけ。情^{なさけ}なく近^{ぢか}のふ芽^め子^こに。能^よと。常^{じやう}ふ
 智^ちうし。肝^{かん}の振^ふね。めよらう。いせあやうといひ
 わえうま。久^{きう}人^{じん}をまこ人^{ひと}よ訓^{くん}らせまう。と。おあう
 人^{ひと}がもて。里^{さと}へおかけ。終^{はつ}ふハ人^{ひと}よ命^{いのち}と。おれん
 不^ふ使^{ぎん}さう。いさう打^{うち}せう。ならう。仰^{おほ}うまう。と。うや
 そえんも子^こが。不^ふ使^{ぎん}なり。ハ。贅^ち者^{しや}と。居^いと。能^よ。お。も。



下



なまうぬぐい月と宿ぐどとらふ場所へ至れども
を。おれ曰。是もひら川のうまなり。さるる病。疲
か。くハ何とうあむ。おまう。懺悔との。其を
死ぐ。子の年。もうり。業。い。ども。何。くも。不
足。後。よ。な。ひ。との。み。なり。ハ。尋。常。持。く。あ。ざ。れ

某ハふむる。其。病。醫。あ。く。医。及。ハ。い。なり。作。家
あ。れ。い。同。よ。ふ。又。後。世。の。事。よ。い。考。考。く
療。治。も。凡。々。の。難。す。う。難。れ。う。ハ。あ。れ。た。外。れ。業
と。ま。い。家。族。衣。体。と。法。を。ま。され。く。病。の。純。く

う。う。ハ。あ。く。遠。東。負。法。う。ハ。松。系。の。友。古。と。新
が。と。利。よ。い。う。年。う。る。せ。ば。安。樂。う。ん。此。年。の
や。れ。麻。疹。年。毎。よ。二。う。友。つ。も。泣。け。す。ま。い
能。れ。た。偶。く。の。う。なり。あ。き。年。れ。後。ハ。却。て。今
年。の。痘。癰。や。なり。按。摩。う。り。よ。至。う。あ。く。括。成。う
う。と。ま。感。な。ん。凡。邪。と。麻。疹。の。勢。ひ。よ。是。ま。う。く
裏。面。て。海。ん。う。ま。う。と。俄。よ。表。へ。出。く。う。や。ら。小
お。り。り。も。あ。よ。ち。と。れ。下。へ。移。り。要。心。捕。と。板
形。よ。後。移。り。こ。る。う。と。と。自。前。よ。決。定。し。世。僕。も
信。と。う。ま。一。僕。ハ。二。人。供。や。二。人。も。つ。ま。う。ハ。わ。つ。よ

是があそ却く長久なるをけくといひ人き
是も湯く成る事く救医の曰余の
後世ハ所子あぬ我回所の言如何の曰
後世のたぬは療治せられ療治とく後世
せしきよ難とてえかく湯とて後世
されと有りあはなきまじとて

公孫喜子とて曰哲人の終るがく海も休
めあはんあそとて又凡とてまて眠る
蛇牛ゆく同て曰我たおの角は固ちく事

物といふ事古書よるくめなる物とて同
人あれた也者そんと知されハの事とて
あてゆらん翁の曰是ハ人所の識なりとて
悟らんあなり海し井の中も中なれハ大海ハ
知るまじ世界のやうなり川とて海とて次
流れ入るも海とてあな知昇つけた減事とて
是より大海の大海とて知るも又上るハ
後れ。天地四方れたがらとて事共計へる中
は大海の海とて海とて又トアとてハ後
る海の中とてあの大倉の海とて

粟^{アヲ}菰^コ藁^{ガウ}多^タしと^トいふ又^{マタ}蒼^{サウ}海^{カイ}の一^{イチ}帯^{タイ}も^モいふ^ル所の
粟^{アヲ}一粒^{イチリツ}の中^{ナカ}は^ハ唐^{タウ}も^モあり^ル天竺^{テンシク}も^モあり^ル日本^{ニッポン}も^モあり^ル
ま^マ日本^{ニッポン}あり^ルる^ル所^所六^{ロク}十^{ジュ}余^ヨ州^{シュ}ま^マ十^{ジュ}余^ヨ万^{マン}の中^{ナカ}
れ^レま^マケ^ケ國^{クニ}は^ハ又^{マタ}一^{イチ}郡^{クニ}を^ヲ一^{イチ}郡^{クニ}の内^{ウチ}は^ハ一^{イチ}庄^{シヤウ}を^ヲ一^{イチ}庄^{シヤウ}に^ニ中^{ナカ}
ま^マま^マ一^{イチ}村^{ムラ}を^ヲ一^{イチ}村^{ムラ}の^ノ内^{ウチ}ま^マと^トま^マ海^{カイ}あり^ルる^ル所^所
あり^ル大^{ダイ}も^モあり^ル小^{ショウ}も^モあり^ルる^ル所^所の^ノ所^所と^ト接^{ツキ}ま^マハ
竹^{タケ}の^ノ所^所ま^マ接^{ツキ}ま^マハ^ハ竹^{タケ}を^ヲ竹^{タケ}ま^マま^マ我^ガ國^{クニ}の^ノ角^{カク}を^ヲ
接^{ツキ}ま^マる^ル所^所に^ニ利^リと^トま^マま^マ海^{カイ}の^ノ角^{カク}は^ハ國^{クニ}ま^マま^マま^マ
よ^ヨま^マま^マ我^ガ國^{クニ}ま^マ又^{マタ}海^{カイ}ま^マま^マ僅^{ワヅカ}小^コ指^{ササ}も^モ足^{タリ}る^ル
ま^マま^マ我^ガ國^{クニ}の^ノ角^{カク}の^ノ所^所ま^マま^マま^マあり^ルる^ル所^所あり^ルる^ル所^所

ちさぬうれ。鰯^{いわし}牛^{うし}角^{つの}よりこたゝく曰。我^{われ}昔^{むかし}是^{こゝ}より^{こゝ}乃^{すなは}ち
 知^しるもの。小^こさとも寡^{ひそ}かとせ。大^{おほ}きとも多^{おほ}きとせ。深^{ふか}くとも
 浅^{あは}くとも。生^なかとも夏^{なつ}愛^{いと}く。せ。生^なきも痛^{いた}く。せ。死^しも。拙^{ちつ}
 と。まじく。氣^きをとりけ。と。能^{あた}ハ。ア。く。休^{やす}め。

龜帖かめし輸うとん同どうく日ひ蟬せみハ飲のむで不食ふしょく蟬せみハ食くてふ飲のむ
 汝なん食く飲のむを未いまも法はふと不食ふしょく何なんと食くて樂よろこと
 すや。蟬せみの曰いは我われ所ところ乃すなはち厚味こうみは飽あ人ひとハ厚味こうみを
 別わかく厚味こうみと厚味こうみとをすくぬく厚味こうみは飽あに
 違ちがハ樂よろこまふ事ことは無食むしょくは別わかく人ひとハ無食むしょくと無食むしょくと受う

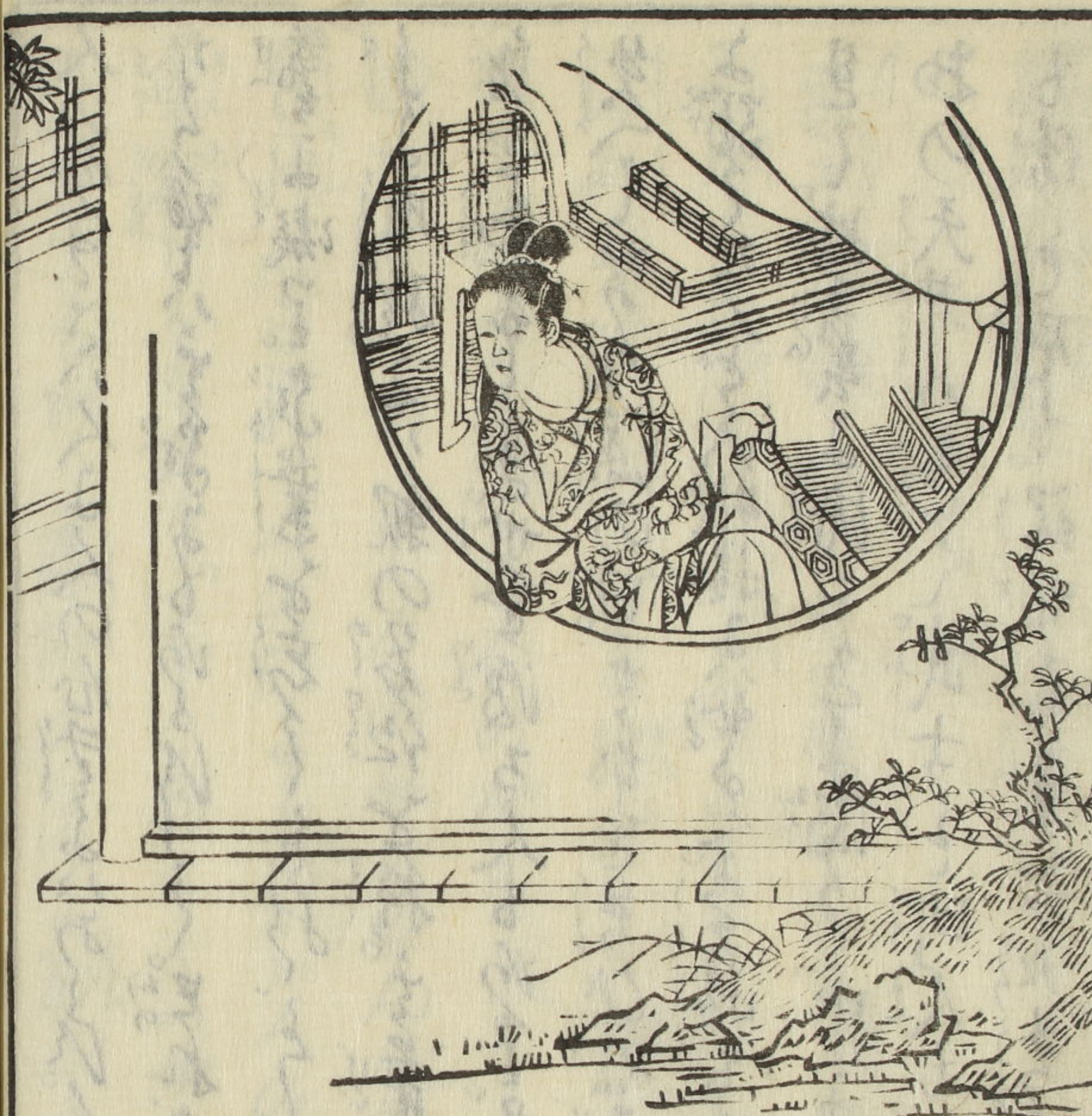
君の湯よりさういふ代々も。菜々と
皆君れ君れかれは。用ひ給ふとて。近
所のまゝさや。二度毎く。身近く。いふ。毛
唐人ハ。と。知。次。作。玉。の。武。士。ハ。サ。シ。ク。

翁密蜂の用も。よ。花。お。と。ん。く。ふ。あ。く。日
百花と。採。り。く。密。と。なり。幸。若。く。と。誰。が。お。ま
母。く。く。密。蜂。振。る。く。日。天。地。万。物。を
生。く。誰。が。お。と。い。ふ。あ。く。ん。や。あ。も。一。箇。の
小。天。地。が。ん。ぞ。誰。が。お。と。言。ふ。へ。と。人。又。小。天。地。よ

わ。く。さ。う。や。あ。く。よ。翁。ハ。耕。す。く。と。知。次。妻。ハ。織
事。と。知。す。一。物。と。老。女。さ。く。く。人。の。幸。若。を
費。す。の。も。り。り。あ。る。糸。一。級。も。く。も。何。ヶ。回。の。人。乃
幸。若。そ。あ。い。来。ハ。何。玉。の。人。の。幸。若。あ。く。お。ま。く
お。と。翁。ハ。何。玉。の。山。より。出。て。い。ふ。お。く。人。の。幸。若。あ。く
翁。ハ。何。回。の。浦。人。の。幸。若。あ。く。お。と。ん。と。言。り。て。何
ハ。お。ま。く。何。玉。の。人。の。幸。若。と。費。す。く。と。や。翁。お
面。く。日。お。く。い。お。と。一。物。と。老。女。さ。く。く。く。く。く。く
能。く。く。食。暖。よ。あ。く。逸。居。す。是。食。飲。よ。く。く。く。く。く
く。ん。お。母。の。日。翁。さ。れ。と。憂。ふ。事。ハ。く。く。く。西。氏。の。か。ま

魏晉書

○ 糠 糲 糲 下



京大坂江戸などの島子や小代のあぐりや
よ百人が九十九人半までくハ皆多くあれども
多くはくもはくもハ色なずや非情も又連理
の枝ありお生のねあり竹は女竹男竹あれども
強よ中しそ死でいふ咄しも所んあふ
うろ地味もねし支度小妻くは長くても竹の子
が脊尺がねくもねくの年若きなり。人八百屋
お七のき品をんくハ洞と所ねよもん勢男
もも勢男もあふ負ふにあふ火とけくなりとも
逢ていんといふと美あふ根去とくハ志ありし

お年けくあしし。あうんれおと島あしと墨
そやと我お非情の目くうんくハあふもあふ
いざいざとね娘ねよ難きするねの昔きハ何れ
男とねとねあふくへと娘入るすくハ心で
男とねとねあふくへと娘入るすくハ心で
お七のき品をんくハ洞と所ねよもん勢男
もも勢男もあふ負ふにあふ火とけくなりとも
逢ていんといふと美あふ根去とくハ志ありし

いづれにれぬ人ありとやすんといふ者ひ
てれ懺悔ありては子孫傳れむとて
とれよ別なく老をさるゝのあり。糸のありては
とれよ悲し人もあり。人の性ハ善なり。た教を
てて可なり。人や平和、璞も琢磨の後、夜光となり
生る。安んずの聖人、十有五而志于学、七十而心の
欲するところあり。是れも矩とて、歩とて、曰すや。汝
僅の杖智を修め、自是とて教と名づけ、て是れ
といふ。是と儒あり。ハ自暴とて、かく深められ、
佛あり。ハ是と名づけ、といふ。ハ自合ぬ。且汝我が

かくよ越え、見よ。蘇州のありては、汝のれあり。若
か、とて、いふ。是所謂井の口連中。汝ハ自暴
の蘇州の柳生、関口の、す可と、汝ハ自暴の、
か。亦百人の力と、汝ハ自暴の、百人の力と、
見よ。ありては、螻蛄とて、曰すや。百人の力と、
ハ加え、ハ蘇州のありては、汝ハ自暴の、百人の力と、
さ。汝ハ自暴の、何とて、いふ。汝ハ自暴の、百人の力と、
が山と、汝ハ自暴の、百人の力と、
の、事あり。ありては、汝ハ自暴の、百人の力と、
克とて、ハ自暴の、百人の力と、

死するも又死する事と知て知んたふ事いふ事
と云ふ事も又死する事と知て知んたふ事いふ事
死するも又死する事と知て知んたふ事いふ事
死するも又死する事と知て知んたふ事いふ事

夢にゆたふくあふ夢の時

虚白斎著

黄ト先生精微後下終

跋

此の書は、
此の書は、

むねに、
むねに、

知るは、
知るは、

振ふ初、
振ふ初、

はの密なるを以て倍人心の

垢はさむと云はるは是れ

の類なり其なるを所謂と云

ふ竭すといふものなり

又馬よのうまてかかぬ筆は

弛ふは例の多決と云ふ

いふも此やある哉

福の守の法は

善事よ心はけり

よりけり

堵庵

安永七年戌正月

滄浪舎藏板

二条通鼓屋町東口八町

山本長玄清

二条通柳馬場西口八町

脇坂仙治郎

馬丸通松原下八町

寸之屋勘次郎

西堀川通高辻七町

唐中屋吉盛

弘所 京都 書林

